



成松 郁廣

NARIMATSU Ikumasa

川崎重工業
常務執行役員



関西全体の元気を 「五国豊穰ひょうご」へ

1981年に社会人になると同時に、神戸で暮らし始めて、早くも38年となりました。入社当時の神戸は、開発が進み、観光客が多く訪れるなど、まさに全盛期ともいう時期でキラキラと輝いていました。しかしながら、昨今、兵庫・神戸への観光客数は伸び悩み、また若者の人口流出も続いており、兵庫・神戸は苦境に立たされています。大阪・関西万博の誘致成功などもあり、関西全体が勢いづいてきた今こそ、兵庫・神戸の魅力をPRして活性化につなげたいと考えています。

兵庫は、日本海と太平洋の両方に面し、数多くの観光資源を有するとても面白い県です。御食国として知られ海産物や淡路牛、たまねぎなどが有名な「淡路」。姫路城があり海の幸も豊富な「播磨」。黒豆や武家屋敷が有名な「丹波」。山陰海岸のジオパークや城崎・出石といった観光資源を抱える「但馬」。日本酒やKOBEブランドがある「摂津」。兵庫は歴史・文化・産業が異なるこれら豊穰な五国からなっています。私が特に最近注目しているのが、豊岡や城崎などがある「但馬」です。舞台芸術家を中心としたアーティストが長期滞在可能な城崎国際アートセンターが設置され、2021年には劇作家の平田オリザ氏を学長に迎える国際観光芸術専門職大学（仮称）が開校を予定、2022年には国際演劇祭の開催をめざすなど、観光と芸術を結びつけた取り組みが始まっています。さらに、城崎は浴衣で闊歩できるとも風情のある街で、観光と芸術が融合した非常に魅力的な街になっていくと考えています。

さて、兵庫が元気になるためには、やはり中心である神戸が復活しなければなりません。近年ようやく、三宮やウォーターフロントの再開発も始動するなど、中心部の活性化に向けた動きが進んでいますが、今後の課題は、関西空港からのインバウンドをどう呼び込むかです。そのためには異国情緒

だけではない新たな魅力を打ち出す必要があります。その一つの候補が歴史でしょう。神戸は、源平合戦の地であり、福原京が置かれた地です。ラグビーワールドカップの会場の一つである和田岬にも、平清盛のお墓・清盛塚や兵庫大仏などの歴史遺産があります。観光資源として活用されるためには、さらなる情報発信が大切だと考えています。

また、神戸といえば港であり、港を活用した観光プランを提案すべきと思います。例えば、神戸発着の瀬戸内海クルーズなどはどうでしょうか。関西空港や大阪、神戸から淡路島に寄り、鳴門の渦潮や直島のアート作品を楽しむことができます。さらに、瀬戸内海の多島美を堪能したり、大三島の日本総鎮守・大山祇神社、松山の道後温泉、尾道に寄ってみたりと、飽きることのないツアーになるでしょう。

神戸はまた、企業と美術とのつながりが根付いている土地でもあります。過去に神戸の実業家らは、優れた美術品を集めて、白鶴美術館など私設の美術館を開設するなどして、広く市民に公開してきました。まさに、芸術にあふれた街であり、これらを対外的にアピールすることも重要だと考えます。

観光には日中だけでなく、夜も楽しめるスポットやコンテンツが必要です。例えば美術館や舞台芸術といった夜の楽しみがあれば、その地に宿泊する人も増えるでしょう。今後の観光振興を考えるうえで、芸術は欠かせない要素になると思います。この点でも、兵庫・神戸は今後も魅力のある地域だと考えています。

関西は今年のラグビーワールドカップに始まり、2021年のワールドマスターズゲームズ、2025年の大阪・関西万博とビッグイベントが続く、関西全体が盛り上がる特別な期間に突入します。これを機会に兵庫にも多くの人を呼び込み、五国の活性化につなげられればと思っています。（談）